



篤姫「One More Stay」ルート

- ① 今和泉散策
- ② いぶすき篤姫館
- ③ 知林ヶ島
- ④ 新永吉の棚田
- ⑤ 知覧武家屋敷庭園
- ⑥ 坊津まち歩き

※営業時間や休業日などは変更となる場合もありますので、おでかけ前に各施設にお問い合わせください。

2日くらいかけてゆっくり巡るのがおすすめ!

第26回 天璋院篤姫のふるさと探訪(南薩)

篤姫ゆかりの地と南薩摩のまちなみを歩く。

鹿児島は広い! 旅ガラスのごとく広い県土を飛び回り、鹿児島島の観光地を紹介します。今回は篤姫ゆかりのスポットを紹介するシリーズ「天璋院篤姫のふるさと探訪」の2回目です。

篤姫の原点。

① 今和泉散策 指宿市観光課 0993(22)2111



豊玉姫命をまつる豊玉媛神社。仁王像は廃仏毀釈によって壊され、市の考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」の敷地に復元されていたものが、ドラマ放送を機に、昨年6月にここに戻ってきました。



今和泉島津家の屋敷跡。当時の石垣や松林、井戸、篤姫も使ったとされる手水鉢が残されています。

「篤姫バーガー」(580円)



今和泉地区を見下ろす高台にある「道の駅いぶすき彩花菜館」のアイデアメニュー。篤姫の好物「赤味噌」のたれにつけ込んだ若鶏を、香ばしく焼き上げ、地元的新鲜な野菜と一緒に直径15センチの大きなパンで挟みました。甘辛くジューシーな鶏肉とシャキシャキとした野菜、マスタードの効いたソースがぴったりと合い、ボリュームも満点です。
《問い合わせ》0993(27)9022



今和泉島津家墓地には初代の忠郷から忠温、忠厚、忠喬、篤姫の父・忠剛、兄・忠冬までの6代の殿様と奥方などの墓があり、100余りの灯籠で囲まれています。

◎篤姫観光ガイド
30分・45分・90分のコースでゆかりの地をご案内(※要予約)
● 篤姫ガイドブック200円+保険料100円※任意
【問】篤姫観光ガイド事務局0993(22)3257

大河ドラマ「篤姫」の放映で脚光を浴びる指宿市今和泉地区。JR薩摩今和泉駅の近くに篤姫の生家・今和泉島津家ゆかりの史跡が点在しています。このあたりのまちなみは歩いて散策するのにぴったりです。市民ボランティアによる「篤姫観光ガイド」は親しみやすい語り好評で、リピーターも多いとか。

入り口にはドラマの衣装が3点展示されています。中央は第4話で篤姫が初めて斉彬と対面する場面で着ていた打ち掛け。(宮崎あおいさんが実際に着用したものです。)



ドラマの中で、おてんばな少女時代の篤姫が過ごした「今和泉島津家於一の部屋」の再現。



大河ドラマで描かれる「篤姫の精神風土のルーツとしての指宿」をコンセプトに篤姫と指宿のかかわりを紹介するいぶすき篤姫館。指宿の風景の中で宮崎あおいさんが篤姫やドラマに対する思いを語るオリジナル映像など、ここで見られることのできない世界が広がります。

② いぶすき篤姫館(ふれあいプラザ) なのはな館内 0993(27)0800
【営】午前9時~午後6時 【休】無
【料】大人400円 小・中学生200円



「篤姫」キャンペーン オフィシャルキャラクター

3 知林ヶ島

指宿市観光課 0993(2)2111



左右から波が打ち寄せ、砂が集まり、潮が引くことで道が広がります。

第1話で篤姫が貝殻を拾うシーンが撮影されたのが指宿市の知林ヶ島を望む砂浜。

知林ヶ島は、3月から10月の大潮・中潮の干潮時には、長さ約800mの砂の道(砂州)が出現し、歩いて渡ることができ、「縁結びの島」ともいわれています。潮の香りや波の音に癒されながら、貝殻を拾ったりして、のんびりと過ごせます。

また少しづつ潮が満ちて再び道が海に沈む瞬間は感動的です。

※島に渡ることでできる日時は、指宿市のホームページ(<http://www.city.ibusuki.lg.jp>)の「砂州情報」で確認できます。

4 新永吉の棚田

指宿市観光課 0993(2)2111



まるで絵のような風景に心とみえます。

第1話の前半。少女時代の篤姫に母親のお幸が人にはそれぞれ役割があり、それを果たす責任があると諭した印象的な場面。後に將軍の御台所となり、江戸無血開城、徳川家存続に大きな役割を果たした篤姫の原点ともいえる場面です。

このシーンが撮影されたのが、当時、今和泉島津家の領地だった指宿市の新永吉地区にある棚田。地区の人々に大切に守られてきた棚田の眼下には池田湖が広がり、湖の向こうには薩摩富士と賞される開聞岳が望めます。

篤姫の時代から。

5 知覧武家屋敷庭園

知覧武家屋敷庭園保存会 0993(5)87878

南九州市知覧町。麓地区には江戸時代からの武家屋敷が今も残り、その美しい景観から「薩摩の小京都」と讃えられています。

【見学】午前9時〜午後5時
【料】大人500円 小・中学生300円



平山克巳邸の枯山水。母ヶ岳を借景にした優雅な造り。

昭和56年に国の「名勝」に指定された7つの庭園は、石組みや樹木の配置によりひとつひとつ趣が異なり、それぞれに落ち着いた美と調和の空間を作り出しています。その静かですみつきとした雰囲気は日常の喧噪を忘れさせてくれます。

また、7つの庭園を持つ武家屋敷は、藩政時代から代々受け継がれ、今も暮らしの場となっており、そのことが醸し出す空気が、武家屋敷に生きた魅力を与えています。



森重堅邸の湧き水をたえた池のある庭園。



美しく手入れされた生け垣と石垣からつくられる整然とした佇まいの本馬場。通りは「敵が攻め込みにくいよう曲げられた」という藩政時代の名残を留めています。

6 坊津まち歩き

観光ボランティアガイド坊津やまびこ会
代表 鮫島昭一さん 0993(6)71049

【案内】無料(※要予約)



坊泊漁港。静かな入江に漁船が浮かぶ。時間がゆっくりと流れます。

今から約千2百年前、唐の高僧鑑真を乗せた遣唐使船が寄港したことで知られる坊津。大陸や琉球との貿易の窓口としても発展し、福岡の博多、三重の津と並ぶ日本三津の一つと称されています。今も仏教や貿易に関する史跡が多く残されています。

リアス式海岸線、曲がりくねった細い石段、密貿易屋敷跡、美しい自然と、海外との交流の歴史を偲ばせる情緒あるまちなみが坊津の魅力です。



篤姫が養女になった近衛忠熙に連なる左大臣近衛信輔公が豊臣秀吉に流され、2年間住んでいた屋敷の跡。敷地内には公お手植えと言われる藤の花が咲きます。



一乗院の歴代上人の墓地。「一乗院(坊)の港(津)」が「坊津」の地名の由来といわれています。